

* ピースウィンズ・ショップから *

おうち時間やギフトに最適! Stay Home や春ラベルで楽しく美味しいコーヒータイムを!

家にいる時間が長くなる今日このごろ。コーヒーを飲む機会が増えたという方も多いのではないのでしょうか。

ピースウィンズショップでは、Stay Homeのコーヒータイムを楽しく過ごせるラベルを各種ご準備しました。中でも、病魔退散アマビエラベルは、疫病封じに効果があるかどうかは別として、全色お求めいただくアマビエファンもいらっしゃるくらいの人気ラベルです。

春の足音もすぐそこまで。心も明るくなる、春の花をモチーフにしたコーヒーもたくさんございます。「Thank you」など一言メッセージ入りラベルもございますので、プチギフトにもぜひご利用ください。

ホワイトデーギフト好評受付中です!

バレンタインも終わり、お返しは何にしようかと悩んでいる皆様。今年のホワイトデーに、フェアトレードコーヒーのギフトセットはいかがでしょうか。コーヒー好きの方へはもちろん、甘いものが苦手な方へのギフトにも最適です。

毎年好評の北海道の福祉施設クピドフェアさんのチョコレート、渋谷区のおかし屋ぱれっとさんのクッキーとのコラボギフトも各種ご準備していますので、この機会にぜひご利用ください。



**必要な人々に
必要な支援を**



笑顔で活動する住民の皆さん



晴谷驛(ハレバレー)の外観

2011年3月11日、あの日津波が町を襲ってから、10年が経とうとしています。地元、宮城県南三陸町出身の私は、小さいころから元気なお年寄りたちの姿を見て育ちました。しかし、津波がお年寄りの活動の場を奪っていったことを今でもよく覚えています。震災から3年経った時、私はある目標を立てました。

～以前のように、お年寄りが生活の中で楽しさを見いだせる場所をつくり出したい～

震災で宮城県南三陸町では、高齢者の軽作業などのあっせんやサークル活動の拠点となっていたシルバー人材センターが全壊し、多くの取り組みが中断されてしまいました。

私たちは、震災前の日常の一部を取り戻し、地域コミュニティの再生につなげるため、高齢者や住民らが集う施設「晴谷驛(ハレバレー)」の建設を支援してきました。また、施設運営を担う団体「びば!!南三陸」の立ち上げも同時に支援してきました。これにより完成後、地元の住民たちが中心となって運営することができています。ハレバレーでの活動は今年、自らの生きがいの充実や社会参加を希望する高齢者の方々のために再興されるシルバー人材センターに引き継がれます。

PWJは東日本大震災発災直後に現地で支援を開始。避難所や仮設住宅への物資支援、漁協や商工会の再開支援、農家の支援、被災者の方々の心のケア、商店街の復旧支援、漁業の生計支援、子ども支援、防災力向上支援、被災した犬や猫の支援、観光振興支援、高齢者の活動支援など様々な支援を実施してきました。これは海外や企業を含めた多くの方々の強い思いがあったからこそ、可能となりました。この場を借りて改めて心から御礼申し上げます。

私は今でも東北で活動を続けています。もしかしたら目標は少しだけ、達成できたのかもしれませんが。しかしまだまだ震災前の日常とはかけ離れています。皆さんに『これ、いいね!』と思っていただけの活動がひとつでも多く実現できるよう、引き続き努力していきます。

西城幸江 PWJ東北現地事業責任者

東日本大震災

—あの日から10年を迎えて—



ご注文は、<https://pwshop.ocnk.net/>

TEL03-5738-8021

FAX03-3465-2112 からどうぞ

オンラインショップでご注文いただけます。皆様のご来店をスタッフ一同お待ちしております。
※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

支援者のみなさまへ

いつもPWJの活動にご支援を賜りありがとうございます。昨年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に流行しました。感染拡大から約一年、いまま世界中の人々が新型コロナという同じ問題の前に立たされています。

PWJの国内および海外の事業地でも、新型コロナ流行下で支援活動を継続できるよう、スタッフは様々な対応を迫られました。

そして今年は東日本大震災から10年の節目を迎えます。空飛ぶ捜索医療団プロジェクトをさらに強化し、大規模災害に備える災害対応ネットワークづくりにも尽力していきます。

今年度も、困難な状況の前に希望を失うことなく、「ひとつたりとも命を見捨てない」という思いで活動を続けてまいります。変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。またコロナ禍という状況の中ですので、どうぞお体を大切にお過ごしください。

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(国内の支援事業の場合はその事業名)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン 広報口

※領収書が必要な場合などをご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。



発行:特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
本部事務所:〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F ☎0847-89-0885(代表)
東京事務所:〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F ☎03-5738-8020 フリーダイヤル ☎0120-252-176
佐賀事務所:〒840-0831 佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F ☎0952-20-1607
ホームページ:<https://peace-winds.org/> Eメールアドレス:meet@peace-winds.org

発行人/大西健丞 編集責任者/武田いづみ レイアウト/菅野加代子

支援のプロを、世界の現場へ

2020年度(2020/2/1~2021/1/31) 事業説明

① パレスチナ

封鎖で物や人の出入りが制限され経済の停滞が続くうに、コロナ禍でさらに厳しい状況にあるガザ地区で、提携団体とともに、3~5歳児対象の健康診断と栄養失調等の治療、幼稚園教諭の研修、子どもと保護者に栄養教育を提供しました。また未来を担う若者たちに仕事の機会が増えるよう、職業技術訓練校を運営しました。



② シリア

シリア国内の提携団体とともに、戦闘で破損・破壊した住居と校舎の修繕支援、子ども用の冬服配布事業、戦闘の激化によって移動を余儀なくされた避難民対象の食糧と衛生用品の配布事業を実施しました。また新型コロナウイルス感染拡大による困窮者や大規模森林火災の被災者への物資配布事業も行いました。

③ イラク

北部の3つの州において、シリア難民や国内避難民など住民の生活環境改善のため、教育、水衛生、保健、シェルター、生計支援、生活物資などさまざまな分野での支援を実施しました。2019年末に避難してきた新規シリア難民に対する支援も継続し、キャンプの整備や灯油配布の支援を実施しました。

④ アフガニスタン

アフガニスタンと日本の7年間の共同事業の成果をハンドブックにまとめてシンポジウムを行い、市民社会強化事業を締めくくりました。また、紛争や干ばつの被災者への毛布や調理器具などの生活物資の配布や給水・衛生支援、新型コロナウイルス禍で経済的に困窮している人々への食料支援を実施しました。

⑬ ネパール

2015年地震の震源地シンドゥパルチョーク郡で、安全な水を確保するための給水施設を建設しました。さらに復興支援の一環として、農家の生計向上を目指し、商品作物としての野菜の栽培技術や販売促進の支援を続けました。また、バクタプール郡では、伝統工芸品であるダカ織の製造・販売技術の向上支援を行いました。

⑭ バングラデシュ

ロヒンギャ難民と難民キャンプ周辺住民を対象に、提携団体とともに診療所を運営しました。特に母子保健サービスに注力し分娩助産や産前産後健診、啓発活動などを実施するとともに、新型コロナの流行を受け手洗いの啓発や衛生用品の配布も行いました。また、サイクロン・アンファンの被災地で緊急支援物資の配布を行いました。



⑮ ミャンマー

毎年乾季になると安全な水の確保が困難なカレン州の村落部を対象に水供給施設を建設しました。さらに施設の長期的な維持管理のための研修、手洗い励行など衛生に関する意識向上を目指した講習も行いました。また州内の国内避難民が居住するキャンプでも水供給施設の建設、トイレや水浴び場の整備を行いました。

⑤ 南スーダン

国内避難民キャンプや帰還民受入れコミュニティで、井戸やトイレの整備、給水衛生施設の整備、衛生普及活動などを実施しました。またサバクトビバッタの襲来による被害を受けた支援として農業研修や農具種子配布を実施、新型コロナウイルス感染症対策支援として病院施設内の給水・トイレの整備や衛生キットの配布等を行いました。

⑦ エチオピア

ガンベラ州の難民キャンプで、南スーダン難民を対象に、世帯用トイレやバリアフリー型トイレを難民も参加して建設しました。また、難民らで構成する水衛生委員会(63カ所)の能力強化研修、石けんなどの物資配布、感染予防の手洗いキャンペーンなどを行いました。



⑥ ウガンダ

ウガンダ北部では南スーダン難民の中でも特別な支援を必要としている世帯へのシェルター建設や、難民とホストコミュニティの住宅・衛生環境改善のための支援を実施しました。さらに西部ではコンゴ民主共和国難民とホストコミュニティの衛生環境改善のために、給水施設の整備、小学校へのトイレ建設等を実施しました。



⑧ ケニア

北東部のダダーブ難民キャンプではソマリア難民を対象に仮設住居の建設や若者への起業支援を行いました。また北西部のカロベエイ難民居住地区では、南スーダン難民への現金給付型支援を通じた恒久住宅建設に加え、難民主体による野外排泄ゼロ化や新型コロナウイルス感染予防支援、サバクトビバッタ被害に対する活動を行いました。

⑨ スリランカ

トリンコマリ県内の内戦帰還民エリアにて、収入の向上・安定を目標に小規模農業貯水池7つの修繕と農業用井戸の設置を行い米の収量増加に貢献しました。また、トリンコマリ県内の有機農業を促進するため、100軒以上の農家に有機農業技術トレーニングや農機具支援、市場開拓のトレーニングも行いました。

⑩ モザンビーク

サイクロン・イダイの被害を大きく受けたソファラ州において、手動ポンプ式の深井戸、つるべ式の浅井戸、高架式タンクと太陽光パネルを用いた給水システムを建設し、住民による維持管理のための仕組み作りや、手洗い講習などの衛生普及活動を行いました。ベイラ市内では、中央病院と医療従事者養成学校の改修を行いました。



⑯ インドネシア

スラウェシ地震後に人々が新しく移住した地域において、トイレ及び給水施設の建設を行いました。また、液化化現象により農業ができなくなった地域では、農業再開を目指し、井戸建設や農地の整地、種配布を実施しました。さらに自然災害のリスクが継続して高い村では地域防災能力向上を目指した研修会を開きました。



⑰ 東ティモール

3月に首都ディリで発生した洪水の被災者に物資の緊急支援を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、レテフォホの住民450世帯に感染予防の啓発ポスターを配布しました。6月にはレテフォホ事務所を一部改装してゲストハウスをオープンし、コーヒーの収穫体験パッケージの提供を開始しました。

⑱ ハイチ

南県において地域の災害対応能力の強化を目指し、災害に強い建設技術の指導とともにコミュニティセンターを4棟建設しました。また住民全体の水衛生環境や防災の知識向上を目指したワークショップを実施しました。さらに、女性の経済的自立と地域経済活性化を目指し、女性グループ向けに加工技術・会計研修を実施しました。



⑲ 日本

ピースワンコ 広島県で殺処分対象となった犬の保護を続け、2016年4月から県内の「殺処分ゼロ」を維持しています。オンライン譲渡会などに力を入れ、2021年1月末には新しい家族を見つけたワンコが2,500頭を超えました。また、「保護犬を迎える選択肢」をもっと多くの方に知って頂くための啓発活動も継続しています。

東日本大震災被災者支援 宮城県南三陸町に建設した交流拠点を運営する現地NPOのサポートを通じて、高齢者や地域住民が気兼ねなく安心して楽しい活動を続けられる環境づくりを継続しました。地域住民から依頼される業務の件数が例年より増加するなど、活動の一層の浸透がみられました。

西日本豪雨被災者支援 前年度から引き続き、岡山県倉敷市真備町の地域コミュニティを再構築するための活動に取り組みしました。被災し再建された集会所への備品提供や、地域の絆づくりの活動を続ける地元団体の能力向上支援、また米国政府の助成金を活用した防災減災事業を実施しています。

佐賀伝統工芸振興 5年目となったふるさと納税事業では、返礼品を提供する伝統工芸事業者数も80を超え、事業者の認知向上、収益アップに貢献しています。デザイナーとのコラボによる商品開発プロジェクト「ピースクラフツSAGA EDITION」は3年目となり、焼物、敷物、家具とバラエティに富んだ商品群となりました。



令和2年7月豪雨被災者支援 発災当日からヘリコプターで捜索・救助にあたり、孤立集落に取り残された被災者・ペットの搬送や診療活動を行いました。また、感染拡大防止のための避難所の環境整備や、物資提供を実施しました。緊急期以降は遠隔にて、地元団体と連携して企業からの提供物資を届けたり、地元団体による復旧活動をサポートしたりしました。

台風19号被災者支援 2019年の台風19号に対応し、7月まで、宮城県内17市町の全壊・大規模半壊世帯を中心とした被災者に対する家電の提供に取り組みしました。9月からは、宮城県大郷町で全壊した障がい児施設の運営を支援し、福祉車両2台の提供と、COVID-19等の感染症対応策に関する職員向けの勉強会を行いました。

医療・レスキュー事業 捜索救助・医療チームの能力強化に取り組みしました。新型コロナウイルス感染症対策支援では、国内の医療機関などに計100万枚以上のマスクを支援したほか、クラスター発生施設での診療も行いました。支援の届きにくい介護福祉施設などを対象とした物資提供やオンライン研修では計1400近い施設に支援を届けました。

地域創生事業 広島県神石高原町の町立病院や診療所でPWJ医師が診療を支援しました。また、町内の体験型観光パーク「神石高原ティアガルテン」の運営協力を続けるとともに、起業支援などを行う神石高原地域創造チャレンジ基金の運営をサポートしました。